

教育目標	
心豊かにたくましく生きる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も要支援児が多く在籍しており、教師の一人一人に寄り添うかかわりを徹底し、安定した信頼関係を築くことができた。 ・子ども一人一人の思いの見取り、実現に向けての手立て等、教師側の振り返りにも重点を置き、個々の『やりたい』をキーワードに、達成していく過程、寄り添うかかわりまた、実現したことによる姿の変容や育ちについて、検証していくことができた。 ・興味をもって活動に参加し、一つ一つやり遂げていく満足感の積重ねが、自信をもって行動する関わる姿が見られた。幼児の実態を見取り、それぞれの学年の活動を工夫して取り組み、興味関心や意欲を高めることができた。 ・保育の具体的な見直しを通して、幼児自身と教師自身の、その時々課題をより明確にすることを、次年度も継続していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も『花の苗やさん』、児童館、地域との共催行事の『ハロウィン』を実施することができ、『茶道体験』もPTA会長他役員数名が見学し、保護者にも地域との交流等がより実感できてよかった。 ・今年も教職員の熱意やチームワークの良さを感じた。 ・幼稚園に活気がある。保護者や地域の行事参加も増え、園の雰囲気を実際に感じる機会も増えたことで、保護者の理解と概ね良好な評価を得られたことも納得できる。 ・今後も地域として、園への協力をしていきたい。 ・保護者の多様な価値観、要支援児の多数の在籍、園児獲得と様々な課題に向けて、今後も果敢に取り組んでいってほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年10月	学校運営協議会理事
最終評価	令和7年 3月	学校運営協議会理事

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・ 幼児の『やりたい』に焦点をあて、個々の気持ちの見取り、他児、集団へと思いを繋いでいく。
- ・ 個々の思いを出すこと、そして思いが相手に伝わることの喜びが、より他者とかかわりを求めるきっかけにしていきたい。そして人とかかわる力を育てていきたい。

視点：幼児の「やりたい」思いが実現できたか。

個々の思いに気づき、大事に受けとめることができたか。

：教師の援助や環境構成はどうだったか。

- ・ 教師自身が、毎日の保育を具体的に振り返り、教師側の課題を明確にする。
- ・ 個々の姿の見取りを確実にしていく。
- ・ まず、担任とのつながり、幼児同士のつながりを意図的に作り、遊びの充実につなげていく。
- ・ 写真やポートフォリオ等を活用。園内研修で学んだことや幼児の育ちを、園便り、HPに活かす。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ 一人一人が思いを十分に示して人とかかわっているか、遊びの振り返りと共に、保育の中で、“次に”どうつなげていくか、どう育てていくか、そのための教師側も援助等を具体的に見直していく。
- ・ 写真やビデオなどを積極的に活用し、視覚的に環境や幼児の姿を共有できるようにする。
- ・ エピソード研修を継続的に行い、幼児一人一人の変容を探り、そのための教師の援助や環境構成の在り方を見直す。
- ・ 保護者アンケート項目の回答

中間評価

各種指標結果

- ・ 各学年の研究保育と協議、エピソード研修をそれぞれ2回ずつ行った。幼児の姿からどの程度実現できていたかを探り、その都度、まずは教師の、個々の姿の見取り方、受けとめ方は適切であったか、また、かかわり方については、“次に”どうつなげていくか、どう育てていくか、の視点が常に明確であったかを、各クラスの事例を通して、具体的に見直し、次（個々、クラス）への保育の展開について研修した。
- ・ iPad を積極的に活用し、写真やビデオなどで、視覚的に環境や幼児の姿を共有することができている。また、保育でも、クラス、幼児同士の共有もでき、より『やりたい』の意欲につながっている。
- ・ アンケート結果

「教育目標『心豊かにたくましく生きる子どもの育成』に向けての保育を行っているか」

大変そう思う…86% そう思う…14%

「安全で豊かな経験ができるように整えられているか」

大変そう思う…76% そう思う…22% あまりそう思わない…2%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ 園内研修の主題にせまるため、まずは教師自身が、幼児の姿の受けとめ方そのものについて、多面的に捉えられているかどうか等協議し、見直しを図った。教師自身が自分の捉え方（何を視点としているのか、なぜそのように受けとめたのか等）を教師自身が明確に自覚し、教師間で伝え、協議においてより幅広い捉え方ができるように、具体的な見直しができた。そして共通理解を図り、次に具体的にどのような手立てが必要か等を、幼児側、教師側の両面から、探ることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・教師自身の視点を明確にしていく必要性を再確認した。 ・保育の中でITCを積極的に活用したことで、活動の様子を視覚的に示し、具体的に振り返ることができ、幼児自身もより明確に、自分の思いを自覚することができた。そしてその思いを『伝えたい』やもっと『やりたい』という姿につながり、活動がより充実した。 ・保護者アンケートより、幼児の思いが安心して出せることにむけて、各クラスの実態に合わせた支援を工夫し、保育を行うことができたことは、良い評価を得ている。 ・『園だより』の幼児の姿を、写真を多くしたカラー刷りで、担任教師の簡潔な文章で、活動の教育的意義や、ねらい、願を、簡潔にわかりやすく伝えることを、今年度も継続している。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『園だより』だけでなく、保育の意図や、日々の活動が学びや育ちにつながっていることを、担任が具体的に、保護者への伝達ができているかを検証し、簡潔に的確に伝える力量を高めていく。 ・京都市立幼稚園の保育内容が、どれほど、幼児期の育ちに必要な取組がなされているかを、今一度、教職員間で共通理解を図り、機会をとらえては、より発信していく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エピソード研修の回数とその成果 ・アンケート「お子さんは幼稚園生活を通して、心身がたくましくなってきましたか」と「お子さんは安心し、楽しく幼稚園に通っている」の、保護者と教職員の回答
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会での子ども達の姿に感動した。教職員の動きも無駄がなく協力的でよかった。 ・内容もよく考えられていて、見ごたえがあった。運動量も十分だった。 ・『園だより』は、わかりやすく、子ども達の様子や、先生の考えがよくわかる。 ・インスタグラムは、よく見ている。HPより多く見られていると思う。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エピソード研修としては、各クラス学期に一度は実施できた。 ・アンケート結果 <ul style="list-style-type: none"> 「教育目標『心豊かにたくましく生きる子どもの育成』に向けての保育を行っているか」 大変そう思う…86%→83% そう思う…14%→15.1% あまりそう思わない1.9% 「安全で豊かな経験ができるように整えられているか」 大変そう思う…76%→69.8% そう思う…22%→30.2%
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへのかかわり方、姿の受けとめ方そのものについて立ち返り、多面的に捉える事の大切さをより意識していく必要がある。どこに視点をあてるのか、なぜそのように受けとめたのか、教師自身の視点を明確にしていくことは、今後も大きな課題である。 ・保育の中でITCを積極的に活用し、視覚的に示したり、活動に関連する動画視聴で、子ども同士の共有や共感、意欲を掻き立てることができ、活動がより充実した。 ・各学年クラスの実態に合わせた支援を工夫し、保育を行うことができた。 ・保護者アンケートでは、おおむね良好な評価を得ているが、『あまり思わない』の回答があり、前に比べ下がっている。保護者の受けとめ方にも変化を感じるが、保護者自身が、日々の保育(取組)について、より理解できるように、はたらきかけていく必要性も痛感した。

	<ul style="list-style-type: none"> 『園だより』の子どもの姿を、写真を多くカラー刷りで、担任教師の簡潔な文章で、活動の教育的意義や、ねらい、願いを、簡潔にわかりやすく伝えることを、今年度も継続しているが、教師の焦点が明確であるかどうか、見直していく必要がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都市立幼稚園の保育内容が、どれほど、幼児期の育ちに必要な取組がなされているかを、今一度、教職員間で共通理解を図り、発信していく。 保育の意図や、学びや育ちにつながっていることを、担任が具体的に、保護者への伝達ができているかを検証し、簡潔に的確に伝える力量を高めていく。 保護者の理解度についても、把握していく必要がある。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師自身の視点や、個々の幼児の姿の捉え方等、専門的なことだけではなく、“保護者がわかる” 伝え方の模索、一番、何を伝えたいのかが、より理解される姿勢が必要ではないか。 明確な視点をもつ教師の力量を高めていく。 毎日の降園時、その日の様子など、担任から直接話を聞けることは、安心につながっている。

(2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 伏見住吉小との定例会。交流等についての事前事後の話合いの時間を確保する。 出前授業等、学校のスタートカリキュラムへの参画。 互いの保育・授業を可能な限り参観しあう。(せめて感想等を伝え合う) I T C を活用し、交流の幅を広げる。 1学期から、就学に向けての連携を図る。 合同研修や幼小交流において、思考力の芽生えの姿や、その姿を育む教師の意図のある援助や環境構成などについて発信し、『学びに向かう力を小学校の学びに繋ぐ機会』となるようにする。 学区内の保育所との連携を図る。幼稚園の長期休業期間に教員が見学に行き、実情を知る。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 合同研修や幼小交流保育の実施回数や内容の充実度 保護者アンケート項目の回答

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果「保幼小連携・地域との連携等では、子どもたちの育ちにつながっている」では、大変そう思う…74% そう思う…26%
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度も『苗やさん』では、園児が学校に出向いて1年生に直接『お知らせ』をして、幼稚園に招くこともでき、年長以外の保護者にも交流していることがわかりやすかったと思う。 今年度も、年度当初から、計画的に回数を増やすことを考慮し、『出前授業』実施することができた。事前事後の話合いもでき、幼稚園教諭の子どもへのかかわり方、姿の見取り方を、伝えることができた。しかし、この点は今年も幼稚園の保護者の理解にはつながっていない。在園で、さらに伏見住吉小に1年生の子どもがいる保護者にしか、実感として伝わらない。 幼稚園の砂場での1年生の活動が昨年度よりも多く実施できた。 今年度も2つの保育園とも、一緒に交流も実現することができた。保育園の保育士に本園の運

	<p>動会を参観してもらえた。</p> <p>本園、保育園2園、1年生との交流が実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定にはなくても、状況に合わせて臨機応変に幼稚園側の教員が対応し、実際にその動きや、言葉かけを、見てもらう機会となった。 ・小学校側の希望や要望には、万障繰り合わせて協力してきた。また小学校の教員に対しても、接続の必要性についても積極的に働きかけていった。 ・より互恵性のある取組になるよう、働きかけ、今年も5歳児が1年生の体育の『授業』を見学して、1年生の姿を見たり、50mを走らせてもらったりができたことはよかった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、交流の方法を工夫し、今後も積極的に働きかけていき、事後の教員同士の振り返りの時間を確保していきたい。 ・工夫と熱意と柔軟な考え方で、より継続して取り組んでいける方法を見つけていきたい。 ・地域の保育園とは、昨年度、見学をしたことでより親しみをもてる関係が築けている。夏季休業期間中には、小学校1年担任も集合して研修、連携ができた。今後の取組へのきっかけづくりができた。 ・思いが伝わりあい、育ちにつながる互恵性のある交流方法を探り、可能な事から実現していきたい。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前の時期、動画でのやり取り等で、連携、接続を図る。 ・アンケート「保幼小連携・地域との連携等は、子どもの育ちにつながっている」の保護者と教職員の回答
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園からの積極的な働きかけと提案、柔軟な対応のおかげで、1年生の授業に貢献してもらっている。 ・(苗やさん) 1年生の参加ができてよかった。育成学級の児童と、小学校の校長先生、中学校の先生方、地域保育園の先生方も、幼稚園に来てもらえたことは、よかった。 ・運動会では、子ども達がいきいきとしていてすばらしかった。 ・大変、見ごたえがあった。先生たちの動きが、素晴らしかった。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>・アンケートの結果「保幼小連携・地域との連携等では、子どもたちの育ちにつながっている」では、大変そう思う…74%→73.6% そう思う…26%→24.5% あまりそう思わない…1.9%</p>
<p>自己評価</p>	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4歳児も2年生との交流に参加することができた。 ・運動会前に1年生の体育の授業の見学や、育成学級との交流等、折に触れて機会を捉え、幼稚園から働きかけて実施することができた。 ・少しでも互恵性のある連携、接続になるために、幼稚園から要望し、給食体験が実現できた。今年度も、1年生の教室で準備から食べるまでの様子を見学し、その後、別室で、給食(栄養士)の先生のお話を聞いたり、配膳等は教職員に対応していただき、試食することができた。 ・保護者アンケートでは、おおむね良好な評価を得ているが、あまりそう思わない…も1名あり、前期に比べて数値的には下がっている。取組も増えているが、保護者自身が、実感できていること

	<p>が少ないと思われる。より理解できるように、はたらきかけていく必要を痛感している。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、管理職だけでなく教員、保育士同士が知り合えたことで、かかわりを持つことができ始めている。今後も、小学校、区内の就学前施設に、幼稚園から積極的に働きかけていく。 ・年度当初に、行事予定の交換等々教員同士で、打合せの機会を確実に持つようにする。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流等の、回数も増え、昨年度よりは、保護者にも見える状況であったが、学区が違うと、意識しにくい面も理解できる。 ・小学校とつながっているということは、とても大切なので、今後も継続してもらいたい。 ・小学校だけでなく、保育園とも交流しているということを、保護者にもアピールした方がよい。

(3) 預かり保育に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気の中で、年長者への憧れや年少者への思いやりの気持ちを育てる。 ・様々な感染症等々の流行状況に合わせて、場の構成、玩具の数・量への配慮を徹底する。 ・記録をもとに指導計画を見直し、幼児の実態に即した活動内容を工夫する。 ・おやつ…アレルギー対応、管理を徹底する。 ・預かり保育担当教員と担任との申送りを徹底する。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数や利用率の推移。(動向や曜日ごとの変動等も踏まえて) ・活動や指導計画の見直し状況 ・保護者アンケート項目の回答

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数は、昨年度に比べて就労での参加が増加している。 ・アンケート結果 「預かり保育(朝預かりを含む)等の子育て支援の取組に意義を感じますか」 大変そう思う…86% そう思う…14% 「お子さんは、楽しんで預かり保育に参加している」〈50人中47人が参加〉参加者47人回答 大変そう思う…64% そう思う…30% あまりそう思わない…6%
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が仕事のため必要があっても、子ども自身が望んでいない場合も多く見られる。 ・要支援児の参加が多く、個々へのかかわりに人員も時間も多く要する。 ・担当教員は、細やかに個々の姿を見取り、保護者にも担任へも報告がなされていることで、保護者の安心につながっている。 ・仕切り板等を利用し、個々の実態に応じて、空間づくりをしたり、適宜活動の場を工夫してつくっていることで、預かり保育においても幼児の『やりたい』が実現できている。 ・長時間預かりの降園時には、幼児自身が疲れてぐずることから、預かり保育時間中の幼児の活

	<p>動の充実感が保護者に伝わりにくい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、安心、安定して過ごせるようにしていく。 ・季節に応じて、園庭での活動も取り入れていく。 ・預かり保育でも、iPad等を活用し、保護者への視覚的な伝達を工夫していく。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用状況の把握と、積極的なボランティアの活用 ・アンケート「お子さんは、楽しんで預かり保育に参加している」の回答
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝預かりも実施していることをもっと発信した方がよい。いまだに知られていないことが多いように思う。 合わせて夕方6時まで預かっていることも、より周知した方がよいのではないかと。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>・アンケート結果 「預かり保育(朝預かりを含む)等の子育て支援の取組に意義を感じますか」 大変そう思う…86%→77.4% そう思う…14%→20.8% あまりそう思わない…1.8% 「お子さんは、楽しんで預かり保育に参加している」〈54人中50人が参加〉参加者50人回答 大変そう思う…64%→58.5% そう思う…30%→34% あまりそう思わない…6%→5.7% 【回答(預かり保育利用)数 前期…47名 後期…50名】</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数は、就労での率と、要支援児の利用数が増加している。 ・担当教員の細やかな配慮やかかわりについて、より保護者に発信していきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要支援児の利用が増えてきているため、より人員が必要である。 ・メンバーや、人数によっては、部屋を分けることや、活動内容の工夫が必要である。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学年の子どもたちと仲良くなれていることが、よいと思う。 ・室内の預かり保育に参加するよりは、外で遊びたいため、1号認定者は園庭開放の方が多かったのではないかと。 ・6時まで預かってもらっていることを、まだまだ知られていないのではないかと。より、アピールしていくべきではとご意見をいただいた。

(4) 子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降園時に、学級や個々の様子を丁寧に伝達し、園としての説明責任を果たす。 また、保護者が安心できるように、個に応じた具体的な一言アドバイスを心がける。 ・ほっこり子育てひろばや家庭教育講座で、子育てについて悩みや工夫を出し合う機会を設ける。 ・未就園児教育相談の充実を図る。 親も子も友達ができる場、安心して子育てについて悩みを相談できる機会を設ける。 ・わかりやすい資料(写真中心)の作成。
--

- ・満3歳児クラス『つぼみ組』の充実。
- ・保育公開や自由参観などの教育発信の機会をつくり、開かれた幼稚園づくりを進める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・保護者アンケート項目の回答
- ・子育て支援の取組回数や参加人数、教育相談件数。未就園児保護者へのアンケートを実施する。
- ・学校運営協議会で、保護者代表より意見を聞く。

中間評価

各種指標結果

- ・業者給食に関するアンケート結果「ランチ（業者給食）の取組は意義を感じますか」
大変そう思う…84%　　そう思う…16%
- ・アンケート結果「お子さんは安心して、楽しく幼稚園にかよっていますか」
大変そう思う…84%　　そう思う…16%
- 「預かり保育や未就園児教育相談等の子育て支援の取組に意義を感じますか」
大変そう思う…86%　　そう思う…14%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・業者給食の実施は、曜日によって保護者の軽減にもつながる（月・金）で、おおむね実施することができた。曜日を固定していないので、連休や園外保育等の都合に応じて、週2回の実施が確実にできた。
- ・昨年度よりは、申込数は増えているため、2学期（9月）から、週4回の選択肢を増やした。
- ・未就園児教育相談は、本園の実施曜日が児童館の実施曜日と重なっているため、参加人数は増えていないが、登録した2歳児がほとんど、入園につながっている。
- ・満3歳児クラスを実施することができた。
- ・休日に説明会等を行ったが、参加者は少なかった。園内見学は随時受付けているので希望者は多い。

分析を踏まえた取組の改善

- ・園児自身が自分で食べること、偏食に対する保護者の意識への、日々のはたらきかけ。
- ・未就園児教育相談に参加したくなるような行事（イベント）の実施に向けて検討していきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・未就園児教育相談の登録者数と未登録での入園数。
- ・担任からの日々の連絡の中で、子どもの姿から、成長したと思われる姿や事例を具体的に伝え、保護者にも、子どもの見方、捉え方や、活動の意義を発信していく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・熱心な取組がなされていることを知った。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・業者給食に関するアンケート結果「ランチ（業者給食）の取組は意義を感じますか」
大変そう思う…84%→81.1%　　そう思う…16%→18.9%
- ・アンケート結果「お子さんは安心して、楽しく幼稚園にかよっていますか」

大変そう思う… 84% → 86.8% そう思う… 16% → 13.2%

「預かり保育や未就園児教育相談等の子育て支援の取組に意義を感じますか」

大変そう思う… 86% → 77.4% そう思う… 14% → 20.8% あまりそう思わない… 1.8%

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・給食弁当の実施は、週4回を選択肢に入れたことによって保護者の軽減にもつながり、利用者数が増加した。
- ・昨年度よりは、申込数は増えている。午前保育（水）曜日も増やしてほしい要望も出てきている。
- ・子どもクッキングの取組を実施し、子ども発信での保護者啓発にも取り組むことができた。保護者自身が子どもの反応、姿の変容を実感できる取組が、今後必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・極端な偏食が多くみられる。給食弁当は、保護者の負担軽減だけでなく、みんなと同じものを食べるという、楽しさ喜び等、子どもにとっての教育的効果を、より周知していく。
- ・自分で最後まで食べるということが確立できていない子どもも多い。（教師が食べさせないと食べない状態が数多く見られる）引き続き、保護者が必要感を実感できる働きかけが必要である。
- ・給食弁当の申込選択肢（回数）を増やしたことにより、保護者の確認不足も多くなることを想定し、メール配信等々で事前に、周知することを徹底した。引き続き、必要であると感じる。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・野菜や、苦手なものを、食べたことが無いという、子どもが増えている。給食弁当で『苦手なものも食べることができた体験』ができることは、保護者としてはありがたい。
- ・食事に関して、保護者自身が、『この子は〇〇が苦手』と、思いすぎているか。また、園からのいろいろなアドバイスを必要としているのではないか。
- ・保護者への働きかけが、重要であると感じた。

（5）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組

- ・可能な限り地域との行事を再開、実施していく。
（『花の苗やさん』『ハロウィン』『茶道体験』『地域清掃』に参加 等）
- ・行事や保育参観・園内展等に積極的にご案内し実際に園の様子を見ていただき、意見・疑問等をいただき、幼稚園で大事にしていることを発信する。
- ・自園の取組や教育内容をHPや幼稚園だよりでの、わかりやすい発信を心がけ、開かれた幼稚園づくりをする。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・保護者アンケート項目の回答
- ・運営協議会での意見

中間評価

各種指標結果

- ・アンケートの結果「保幼小連携・地域との連携等では、子どもたちの育ちにつながっている」では、大変そう思う… 74% そう思う… 26%

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、回数や内容を工夫し実施することができた。より充実できるよう、時期や実施方法を工夫をしていきたい。 ・常に計画通りに実施できないことも想定し、実施可能な方法を模索し、代替案を準備している。 ・夏季休業期間中に伏見住吉小学校、住吉保育園、住吉西保育園との教員、保育士の打合せ、集合での実技研修等々が実施できた。地域との取組は、ハロウィンだけであるので、保護者には、実感できる要素が少ないと思われる。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・実施できている取組に対して、教育的意義も含めて、保護者へ発信をしていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目の回答 ・運営協議会での意見 ・地域行事についての園内研修や打ち合わせの実施
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・今年も、園の前向きな姿勢で様々なことに取組んでいることがよかった。今後も、園を応援したい。 ・地域への行事参加については、幼児の可能な範囲から検討しながら、共に模索していきたい。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果「保幼小連携・地域との連携等では、子どもたちの育ちにつながっている」では、大変そう思う…74%→73, 6% そう思う…26%→24, 5% あまりそう思わない…1.9%であった。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・年長児の保護者は実感できている結果となった。特に年長児の『茶道体験』は、保護者（PTA会長他役員）の見学もしてもらい、より実感できたと思われる。しかし、他学年の保護者にとっては、関心が薄いのが実態である。周知の方法を工夫していきたい。 ・地域清掃の活動では、小学校と合同での実施をめざしたが、日程調整が困難だったため実施できなかった。次年度は、幼稚園だけでも、機会をつくっていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容や意義の周知の方法の検討工夫 ・幼稚園だけでも実施できる内容を検討する。 ・『茶道体験』の回数を増やすことで、年長だけでなく年中児や、年長親子等、実施方法も検討していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・『茶道体験』では、学校運営協議会理事、地域女性会が関わったことで、園児の様子がわかり、大変よかった。今後も協力していきたい。 ・茶道体験の中で使う言葉『お先でした』等、暮らしの中で使われてきた言葉そのものを、知らずに育てている子どもが増えていることを感じる。このように茶道体験等を通して、『近所のおばちゃんから教えてもらう』のは、大事なことだと感じる。

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人が勤務時間と『見える仕事』を意識し、見通しを持って取り組み、効率化を図る。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・『報・連・相』の徹底と『見える仕事』を意識し、実践する。 今、個々が取組む（取組もうとしている）業務について周知し、優先順位の共通理解と、分担していける段取りを組み、効率化を図り、二度手間を避ける。 ・特に今年度は、『確認』の徹底をする。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間と働く意欲 ・打合、会議に要する時間 ・年休取得率（教頭、教員が休業期間中に年休を昨年より1日以上多く取得する。）

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね意欲的な姿が見られる。 ・打合、会議に要する時間については、保護者対応等々計画通りにいかない事が多いが、効率よく進行できるよう、終わりの時間を先に伝え、意識して積極的に発言し取り組むことができた。 ・職朝を減らすことを実施できた。新規採用者、経験年数の少ない教職員が在籍のため、必要に応じて臨機応変に取り組んでいきたい。 ・年休取得については、教頭、教員が夏季休業期間中に年休を昨年より1日以上多く取得している。
自己評価	<p data-bbox="226 1191 475 1227">分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『見える仕事』について、今一度、意識化されるよう、促していく必要を感じる。特に報告、連絡については、徹底していかなければならない。
	<p data-bbox="226 1337 564 1373">分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、出勤時の挨拶、園外保育時等、地域での挨拶の励行。 ・二度手間を防ぐために、伝達、報告をより徹底していく。効率化を図りながら、一つ一つの作業的な仕事は、完結していくことを意識化されるようにはたらきかける。
	<p data-bbox="226 1538 903 1574">(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打合、会議に要する時間と段取りの共通理解。（自分事として捉える習慣をつける） ・年休取得率（教頭、教員が冬季休業期間中に年休を昨年より1日以上多く取得する。）
学校関係者評価	<p data-bbox="226 1677 622 1713">学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『運動会』の取組から、全教職員の協力体制がとれていることがうかがえた。 ・あたたかいかかわりの中での、幼稚園の様々な取組が、維持されることを願っている。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職員は子ども一人一人にあたたかいかかわりをしている」 大変そう思う…92, 5% そう思う…7. 5%
---------------------	---

・「教職員はいきいきと働いている」

大変そう思う… 73.6% そう思う… 24.5% あまりそう思わない… 1.9

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・『子ども一人一人にあたたかいかかわりをしている』については、あまりそう思わないが、なかった。
- ・おおむね意欲的な姿が見られるが、『見える仕事』について、今一度、意識化されるよう、促していく必要がある。特に確認、報告・連絡については、特に徹底していかなければならない状況である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・『見える仕事』を実現するため、報告・連絡・相談の繰り返し徹底を図る。
- ・“保育の事は、教員がする”ことについては、改善できてきたが、分担する分量にばらつきがあり個別には負担感がある。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・教職員のチームワークを感じるが、担任の保護者への対応で気がかりな点もある。
- ・園の取組を理解し、協力していきたい。